CBC	201000
	担当部署
CBC	血液

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		食事、運動、ストレス、薬剤（化学療法薬、クロラムフェニコール等）（化学療法薬、クロラムフェニコール等）の影響を受けやすい。
検査受付時間		緊急対応（24 時間）

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	1 紫	EDTA-2K	2	mL
2	全血	1 紫（ﾏｲｸﾛﾃｨﾅｰ）	EDTA-2K	0.5	mL
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)凝固した検体（凝集コメント報告許容） 2）サンプリングできない検体
保管検体の保存期間	室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部

<table>
<tr><td colspan="2">測定時間</td><td colspan="6">当日中</td></tr>
<tr><td colspan="2">生物学的基準範囲</td><td colspan="6">添付データ参照(JCCLS 共用基準範囲より引用)
EX 共通 079：JCCLS 共用基準範囲</td></tr>
<tr><td colspan="2">臨床判断値</td><td colspan="6">設定なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">基準値</td><td>単位</td><td colspan="2">添付データ参照</td></tr>
<tr><td colspan="2">共通低値</td><td>共通高値</td><td>男性低値</td><td>男性高値</td><td>女性低値</td><td colspan="2">女性高値</td></tr>
<tr><td colspan="2">設定なし</td><td>設定なし</td><td>設定なし</td><td>設定なし</td><td>設定なし</td><td colspan="2">設定なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パニック値</td><td>高値</td><td colspan="6">WBC20000 /μL</td></tr>
<tr><td>低値</td><td colspan="6">WBC1500 /μL
Hb 5 g/dl
血小板 3 万 /μL</td></tr>
<tr><td colspan="2">生理的変動要因</td><td colspan="6">性差、年齢差も大きく変動する</td></tr>
<tr><td colspan="2">臨床的意義</td><td colspan="6">スクリーニング検査であり，血液疾患の診断や経過観察，貧血，感染症，出血等がある場合に頻用されている。検査項目として赤血球数（RBC）・白血球数（WBC）・ヘモグロビン量（Hb）・ヘマトクリット値（Ht）・平均赤血球容積（MCV）・平均赤血球血色素量（MCH）・平均赤血球血色素濃度　（MCHC）・血小板数・破砕赤血球分画（%FRC）を調べることは極めて重要である。主に RBC・Ht・Hb の組み合せにより貧血あるいは赤血球増加症の有無を調べる。またそれらから MCV・MCH・MCHC が算定され貧血の病態検索に用いられる。WBC は数量，形態，機能異常をきたす疾患の病態，急性期および回復期または臨床効果などを評価するために測定する。白血球は好中球，好酸球，好塩基球，リンパ球，単球からなり各々が別々の生理的 機能を有するのでその分画（血液像別項参照）を調べることも極めて重要である。測定は大きく 3 系統にわけられ自動白血球分類、網赤血球、IPF に代表されるリサーチ項目も測定できる。
EX 共通 CL1084：「三輪血液病学　2006」537
EX 血液 201000-05：「患者さんに伝える臨床検査の説明マニュアル」388</td></tr>
</table>